

全日空、客室乗務員を正社員採用

航空会社	契約社員 (1年更新)	正社員
全日本空輸	採用	3年後になるか選べる
日本航空	採用	3年後になるか選べる
ジェットスター	採用	なる制度はない
スカイマーク	採用	3年で契約打ち切り

客室乗務員の採用は、契約の地上スタッフで採用、客室乗務員の訓練

来年度から 人材確保狙い転換

全日本空輸（ANA）は19日、2014年度以降に入社する客室乗務員について、当初から正社員として採用すると発表した。契約社員として8年勤めた後に正社員化する方法を改める。格安航空会社（LCC）などとの競争が激しく、雇用が安定する採用で優秀な人材の確保をはかる。

14年度は450人の新卒採用を予定している。現在約6千人の客室乗務員のうち契約社員が1600人については、希望に応じて14年度から正社員化する

という。人材費の削減を狙った従来の採用を改める動きが、業界に広がる可能性がある。

現在の仕組みは、バブル経済崩壊後の1995年度に取り入れた。入社8年後に、正社員となるか契約社員としてさらに3年働くかを選べる仕組みで、8割が正社員を選ぶという。

雇用が安定しない契約社員での入社を嫌って、内定を出しても就職を取りやめる人もいるという。ANAの河本宏子客室セクター長は記者会見で、「海外も含む航空会社や新幹線などとの競争が激しく、サービスの向上に優秀な人材を確保したい。先手を打って採用環境を整える」と話した。

正社員化すると年金や退職金などの人件費が増える。ただ、離職率が下がれば採用を抑えられ、社員教育にかかる経費が減る面もあるため、大幅な経費上昇にはならないと判断した。

客室乗務員の採用では日本航空も当初3年は契約社員だ。95年度からの制度だ。（永村聡志）

出典:朝日新聞 2013年8月20日

全日本空輸は19日、現在は契約社員として採用している客室乗務員（CA）を、2014年度から正社員採用に切り替えると発表した。格安航空会社や海外勢との競争が激化する中で、優れた人材を確保するのが狙い。同社がCAを正社員として採用するのは約20年ぶりとなる。

在籍するCA約6000人のうち約1600人いる契約社員についても、14年度以降、本人の意向に応じて正社員に切り替える。

契約社員は、機内サービス

来年度から正社員採用

全日空契約CAやめます

を統括するパイサーなどになれないため、入社時から正社員とすることで、経験者を早期に活用できる利点もある。人件費が増える可能性があるが、CAの待遇が改善して離職者が減れば、追加採用など余分のコストが抑えられる。

全日空は1995年、コスト削減のため、それまで正社員だったCAを契約社員として採用し、3年後に正社員か契約社員かを選択できる制度を導入した。日本航空も現在、同様の仕組みを採り入れている。

記者会見した全日空の河本宏子取締役執行役員は「採用競争力を強化し、長期的な人材育成を進めていきたい」と強調した。

出典:読売新聞 2013年8月20日